

道徳

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

中学校 第3学年 道徳科 学習指導案

埼玉県さいたま市立土合中学校
教諭 稲生 洵也

主題名 法やきまりの意義

教材名 13 二通の手紙（1時間）

内容項目 C 遵法精神、公德心

本時のねらい 元さんの行動や選択について考えることを通じて、きまりや法の意義について理解を深め、それらを遵守し、規律や秩序ある社会をつくろうとする道徳的实践意欲と態度を育てる。

指導時期 9月頃

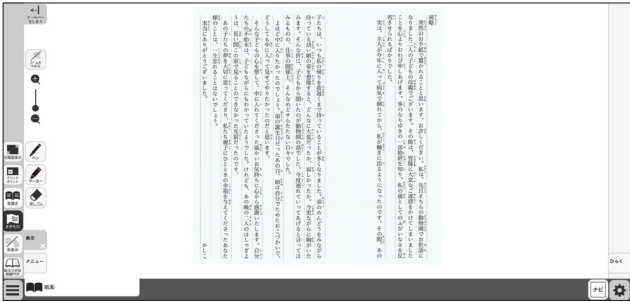
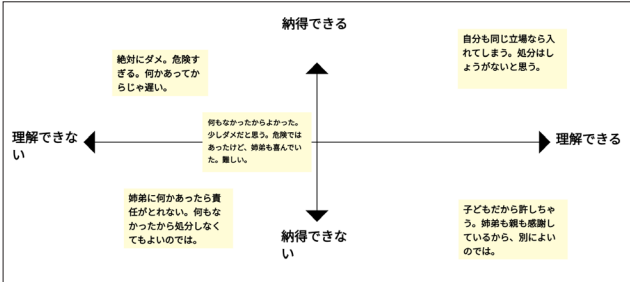
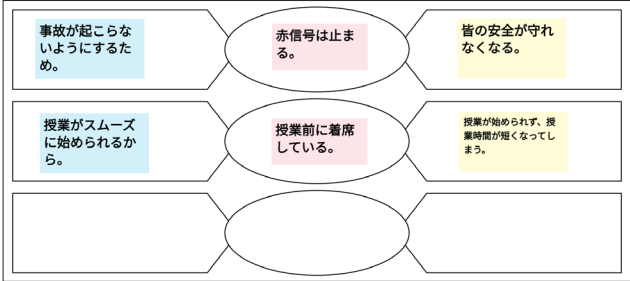
「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

元さんの行動について「理解できる」「できない」、元さんの処分について「納得できる」「できない」を「思考ツール」の「座標軸」を使い、整理する。生徒の意見を「指導者用デジタル教材」の「座標軸」を用いて集約し、黒板等に映すことで、生徒への共有や、教師側が意見を取り上げる際に比較しやすくなる。それにより、一見同じ考えに見えるものでも生徒一人一人の考え方に細かな差異があることに気づきやすくなり、物事に対する視野が広がり、考えを深めることが見込める。

また、きまりや法の意味について考える場面では、「キャンディーチャート」を用いて意見を共有する。こうすることで、きまりや法がなぜあるのか、それが無いとどのようなことが起こるのかを1つのキャンディー（つながり）として捉えられると想定できる。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 1. きまりや規則についてもっているイメージを出し合う。 - T：きまりや規則についてどんなふうに感じていますか。 - C：煩わしい。 - C：なくてもいいと思う。 - C：あったらめんどくさいって思うけど、なかったらそれはそれで困るかも。 - C：なかったら犯罪とかがもっと多くなって、日本が大変なことになる。	
展開	2. きまりや法について考える。 ●教材を範読する。	●母親からの手紙を読む際、「指導者用デジタル教材」p.79～80の手紙部分をスクリーンに映し、臨場感をもたせる。 ●「表示」を「まきもの」に切り替え、「ズーム」して映すとわかりやすい。

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	T：あなたは元さんの行動について理解できますか、できませんか。また、元さんに下された処分について納得できますか、できませんか。 C：自分も同じ立場なら入れてしまう。処分はしょうがない。 C：子どもだから許しちゃう。姉弟も親も感謝しているからいいのでは。 C：何もなかったからよかったけど、少しダメだと思う。でも、姉弟も母親も喜んでいた。難しい。 T：元さんが晴れ晴れとした顔でいられたのはなぜだと思いますか。 C：姉弟たちが楽しんでいたから。 C：大事に至らなくてホッとしたから。 [補助発問] T：懲戒処分の手紙をもらったことに関して、元さんはどう感じているのでしょうか。 C：勝手な判断をしてしまったから処分はしょうがない。 C：きまりを守ることの大事さを痛感した。 T：学校や世の中にあるきまりや法が何のためにあるのか考えてみよう。 C：きまりがないと、不自由なことが起こってしまう。 C：きまりを守らないことは簡単だけど、それによって多くの人に迷惑がかかる。自分を守るためでもある。	 ●「学習者用デジタル教材」の「思考ツール」から「座標軸」を立ち上げる、自分の考えを貼る。 ●「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」の「座標軸」を使い、生徒の発表を集約し、全体で共有する。  ●「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」の「キャンディーチャート」を使い、まとめ方を確認する。 ●「学習者用デジタル教材」の「思考ツール」の「キャンディーチャート」を使い、真ん中に思いつくきまりや法を書き、左側に「なぜこのきまりがあるのか」、右側に「このきまりがないとどうなるのか」を貼ることで、考えを整理する。 ●生徒の発表を集約し、全体で共有する。 
終末	3. 本時の学習を振り返る。	●既存の振り返りシートなどを使って振り返る。

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

【教師側の効果・メリット】

「思考ツール」の「座標軸」を使うことで、生徒一人一人の考え方の差異を比較しやすくなる。また、生徒の意見を簡単に共有できるため、より多くの生徒の意見を授業で取り上げることが可能になる。

【生徒側の効果・メリット】

生徒一人一人の意見を、「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」に集約することで、多様な意見にふれる機会が増える。特に、「キャンディーチャート」を使用する場面では、「法やきまりの意味」と、「法やきまりがないことで自分たちの生活に及ぼす影響」について結びつけて考えられるようになり、きまりや法を自分事として捉えることにつながる。

「学習者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

自分の意見や考えを「学習者用デジタル教材」の「思考ツール」の「座標軸」に表すことで、似ている意見でもその程度の違いを可視化できるため、生徒は考えの強さや自分自身の揺らぎに気づくことができる。これにより、自分の考えを他者と比較し、視野を広げ、自分の考えをより深めることにつながる。

また、きまりや法の意味について考える際、「思考ツール」の「キャンディーチャート」を使うことで、比較がしやすくなり、きまりや法の意味を多面的・多角的に捉えることができる。それにより、「きまりや法を守らないと周囲の人に迷惑がかかってしまうこと」だけでなく、「きまりや法を守ることが自分自身のためになること」など、異なる視点の考えに生徒自身が気づくことにもつながる。